（公財）中央果実協会
No.285

ペルーの落葉果実事情（ブドウ）

米国農務省GAINレポート　2023年11月14日

これは米国農務省海外農業局リマ事務所（ペルー）が作成した「落葉果実年次報告書」の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

ペルーの2023/24年度（10月～9月）のブドウ生産量は、前年度比1％増の77万5,500トンと予測される。2023/24年度の生鮮ブドウの国内消費量は、2022/23年度から3％減となる18万トンと予測される。ペルーの2023/24年度のブドウ輸出量は、前年度比2％増の59万5千トンと予測される。米国は、引き続きペルー産ブドウの最大の輸出市場であると見込まれる。

＜ブドウ＞

表1　チリの生食用ブドウの生産需給統計

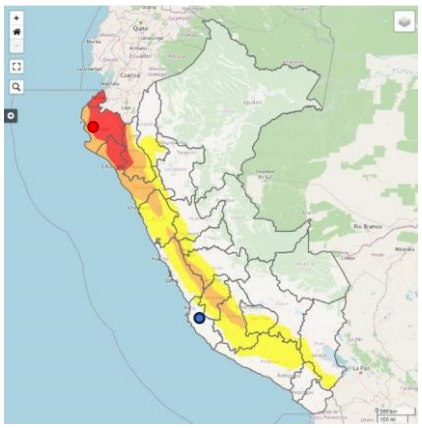
ブドウ（生鮮、生食用） 販売年度の始まり ペルー	2021/2022 2021 年 10 月		2022/2023 2022 年 10 月		2023/2024 2023 年 10 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	32,000	32,000	34,000	34,000	0	35,000
収穫面積（ヘクタール）	30,000	30,000	32,000	32,000	0	33,000
商業的生産量（トン）	592,000	592,000	645,000	645,000	0	654,500
非商業的生産量（トン）	121,000	121,000	121,000	121,000	0	121,000
生産量合計（トン）	713,000	713,000	766,000	766,000	0	775,500
輸入量（トン）	500	7,417	300	7,500	0	500
総供給量（トン）	713,500	720,417	766,300	773,500	0	776,000
生鮮国内消費量（トン）	175,200	175,200	171,300	186,000	0	180,000
輸出量（トン）	537,300	544,000	595,000	586,000	0	595,000
市場からの隔離（トン）	1,000	1,217	0	1,500	0	1,000
総仕向量（トン）	713,500	720,417	766,300	773,500	0	776,000

生産

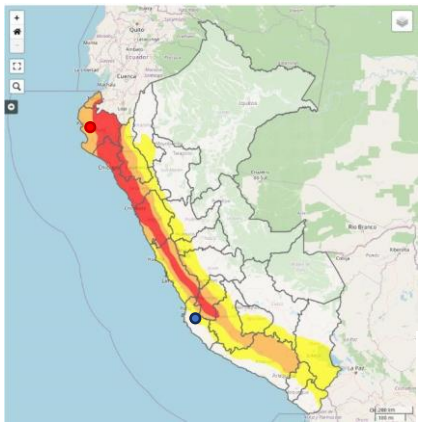
ペルーの2023/24年度（10月～9月）のブドウ生産量は、前年度比1％増の77万5,500トンと予測される。予想外の暖冬、大雨、洪水、及び経済的な麻痺を引き起こした政情不安は、昨年度のペルーのブドウ生産をほとんど妨げなかった。さらに、現在進行中のエルニーニョ現象による干ばつは、ペルー南部のブドウ産地であるイカ市周辺ではほとんど影響を与えないものと見られる。

2023年3月上旬にサイクロン「ヤク」（先住民族のケチュア語で「水」を意味する）がペルーを襲った。ペルー国立気象水文局（SENAMHI）が「1998年以来観測されていない『構造が不明瞭な』熱帯低気圧」と表現したこの現象は、40日間にわたって強風、集中豪雨、高波、高潮、河川の増水や洪水をもたらした。

図1　2023 年 3 月上旬～中旬のペルーの気象条件



告知 044 号　2023 年 3 月 7 日



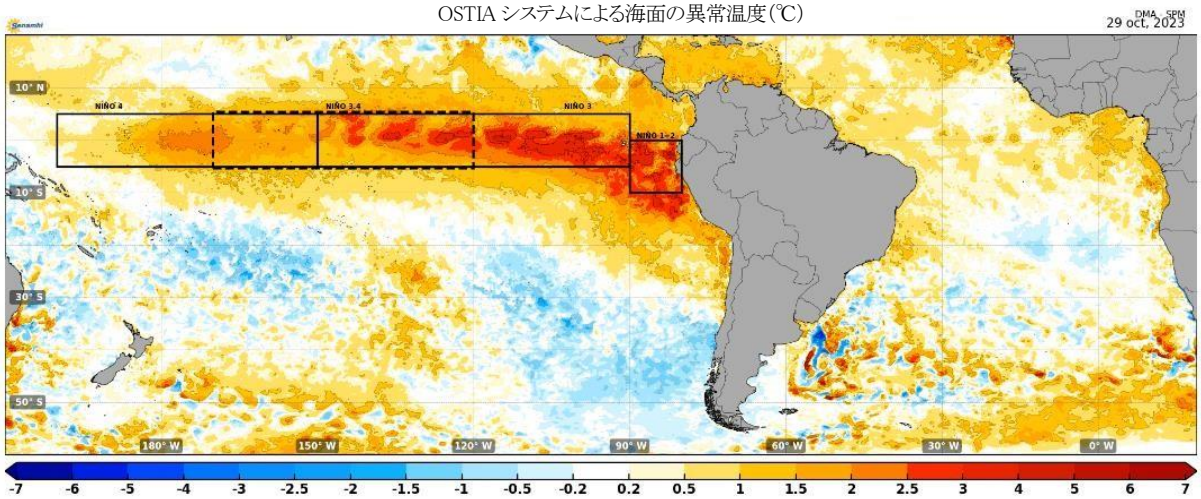
告知 046 号　2023 年 3 月 12 日

（訳者による参考表示）
● ピウラ市
● イカ市

出典: SENAMHI告知 044 号及び 046 号（スペイン語）　色分けは危険度を表す。

さらに、ヤクの後にはエルニーニョ現象が発生し、最高気温が平均より4℃高くなった。この気温上昇がブドウの木の生育と収穫後の回復に、特に北部のピウラ市周辺で影響を与えた。湿度と気温が高いため、ピウラ市周辺のブドウは真菌病にかかりやすくなり、収穫された果実の重量に悪影響を及ぼした。ペルー政府のエルニーニョ監視システムによると、エルニーニョの強度は「強」(49%)～「中程度」(47%)になると見られ、2024年2月まで温暖な状態が続く可能性が高いと予想されている。

図2　2023 年 10 月 29 日の沿岸エルニーニョの状況



出典: SENAMHI

2022年(暦年)の気候パターンはラニーニャ現象の影響でやや寒く、2023年はエルニーニョ現象に移行したため平年を上回る気温となった。ラニーニャからエルニーニョへの移行には、通常は緩衝期間があるが、その期間が著しく短縮された結果二つの極端な天候がほぼ連続し、これが植物の生育に影響を与えるため、昨年は収穫が遅れ、今シーズンはおそらく収穫が早まると見られる。

2023年の生産に影響を与えたもう一つの事柄は、経済的な麻痺を引き起こした政情不安であり、全国で複数の道路封鎖や運輸労働者のストライキなどがあった。これらすべての問題にもかかわらず、ブドウ業界の職業意識と、ブドウの収穫量への重大な影響を回避するために生産者、業者、政府と協力する能力により、ペルーのブドウ生産に与える影響は概して限定的であった。

図3　リマ市周辺のスーパーバレー地域でのブドウ生産

出典: 当事務所

ペルーのブドウ生産は、主に沿岸部で行われている。沿岸部の砂漠状態では、毎日の気温が一貫して9～30℃であり、年間を通じて1日当たり12時間超の日照時間があるため、ブドウ生産に理想的な地域となっている。これらの条件と精密灌漑により、ペルーは近隣諸国よりも55%早くブドウの木を成長させることができた。

ブドウの産地は、主にイカ県（43%）とピウラ県（30%）に所在する。総栽培面積は3万5千ヘクタールと推定される。ペルーの収穫期は10月下旬から4月までで、北から南へと移動する。2023/24年度の収穫シーズンは天候に恵まれ、14日～20日早く始まった。革新的な技術を用いた管理により、ピウラ地域は3月～4月と11月～12月に収穫する二期作を実現している。

図4　ペルーのブドウ産地

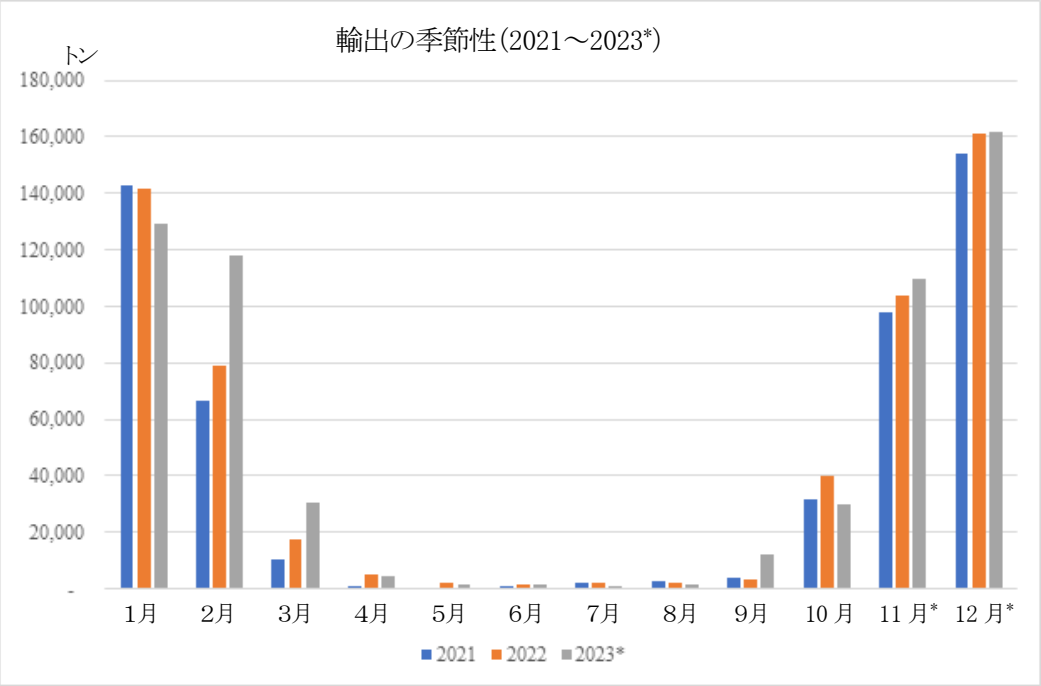
出典: ペルー農業省（MIDAGRI）

2022/23年度と比較して種なし白ブドウ品種が15%増加したことで、生食用ブドウの白/緑と赤/黒の種なし品種は、栽培面積が半々になっている。最も代表的な5品種は、レッドグローブ（30%）、スイートグローブ（22%）、オータムクリスプ（9%）、アリソン（7%）及びクリムゾン（5%）で、合わせて73%を占めている。現在、生食用ブドウの栽培面積の70%にライセンスが供与され、30%が従来の販売方式であり、この業界が市場主導型で、現代的で、対応力が高いことを示している。公式データによると、ペルーは2022/23年度に、26のブドウ品種を53の地域に輸出した。

さらに、ピスコ（ペルー特産のスピリッツ）用のブドウとしては、ケブランタ、ネグラコリエンテ、モラール、ウビナ等の非芳香性の品種と、イタリア、モスカテル、アルビラ、トロンテル等の芳香性の品種がある。ワイン用の品種としては、ペルーには、ボルゴナブラック及びホワイト、カベルネソーヴィニヨン、シャルドネ、マルベック、メルロー、モスカテル、モラー、シラー、タナ、ピノヴェルド、ピノノワール等、30品種がある。

ブドウは、ブルーベリーに次いで、ペルーで栽培を開始するのに最もコストのかかる作物の1つである。ペルーのブドウ作は、土地代を除いて1ヘクタール当たり約4万5千ドルの初期投資が必要である。生産コストの約30%が土壌の準備と灌漑システム、25%がトレリスの設置、14%が植物自体、4%が剪定と栽培管理に充てられる。これは、小規模農家にとっては大きな支出である。しかし、価値が高く市場性のある品種を生産することの投資収益率と収益性は注目に値する。栽培管理が必要で労働集約的な作物であるブドウに関わる産業は、ペルーの農業部門で多くの雇用を生み出している。イカ県などの標高の高い産地では、労働力需要が着実に増加しているおり、完全雇用を誇っている。

図5　ペルーの月別ブドウ輸出量



出典: ペルー税関(SUNAT)　*は当事務所の予測

貿易

当事務所は、2023/24年度のブドウ輸出量を前年比2%増で史上最高の59万5千トンと予測する。2022年には、米国が25万814トンで最大の輸出先であり、次いでオランダが7万4,949トン、メキシコが3万5,083トンであった。

生食用の生鮮ブドウは、ペルーにとって金額で2番目に大きな輸出品である。2022年には輸出量の増加により、輸出額は前年比9%増の13億6千万ドルであった。2022年の輸出市場におけるブドウの価格は、2021年と同じ1トン当たり平均2,438ドルであった。ただし、米国市場での平均は2,567ドルであった。ペルー産ブドウの米国への輸出は、通常12月～1月の間にピークに達するが、2023年2月には前年比47%増加した(2022年2月の8万トンに対し11万8千トン)。これは、2022年12月と2023年1月の政治的危機、社会不安及び道路封鎖により、すべての輸出量が2023年2月にずれ込んだためである。

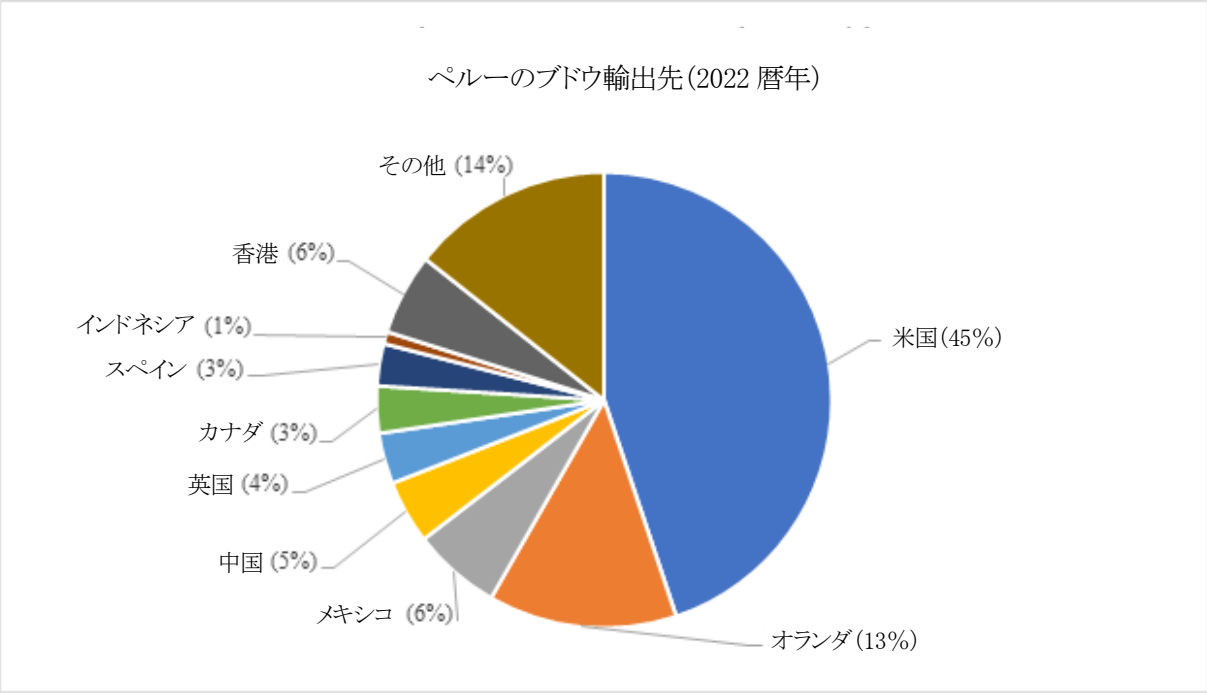
2023年1月～8月の輸出価格は1トン当たり2,341ドルで、前年比4%下落した。ただし、2023/24年度の価格は回復を示しており、2023年10月には2,842ドルに達した。

南部(イカ県及びアレキパ県)の生食用ブドウ農場の2023/24年度のゲームチェンジャーは、毎週ピスコ港から出るエクスプレス輸送サービスである。イカ県にあるピスコ港は2023年11月9日にブドウの輸送を開始し、パナマでの積み替えを経てイカ県と米国(サバンナ港、フィラデルフィア港、ロサンゼルス港)を繋ぐほか、メキシコ(マンサニージョ港)、カナダ(バンクーバー港)及びヨーロッパ北部(オランダのロッテルダム港、フランス(ベルギーの誤り)のアントワープ港)とも繋がる。輸送に要する平均日数は、フィラデルフィアまで12日、メキシコまで18日、ロサンゼルスまで22日、ロッテルダムまで20日、バンクーバーまで30日である。この港は、20フィートコンテナ換算で9千～1万1千コンテナを積む船舶(新パナマックス規格)を受け入れることができる。このサービスは、時間と輸送コストを節約し(12～24時間かかるカヤオ港までの50Kmの移動を回避)、ペルー産生食用ブドウのパフォーマンスと品質の向上に良い影響を与える。ピスコ港の近代化プロジェクトは、2018年から3年間で2億4千万ドルの投資を行い、2022年には前年比30%増の270万トンを取り扱った。

2024/25年度に向けて、多目的のチャンカイ港が中国によって建設中であり、2024年11月からブドウの取り扱いが始まる可能性がある。チャンカイ港は、カヤオ港から60Km離れたリマ市にあり、輸送量と貯蔵量

の点でペルーの主要港の代替となる。公式情報によると、チャンカイ港はアジアへの出荷時間やコストを減らし、ペルーの対外貿易業務の競争力を高める。また、ブラジルは、チャンカイ港をアジア向けの貿易ルートとして検討している。

図7　ペルーの輸出先国別ブドウ輸出



出典: ペルー税関（SUNAT）

政策

ペルーは、米国、中国、欧州連合等との24の貿易協定に署名している。これらの協定は、米国動植物検疫局（APHIS）のカウンターパートであるSENASA（ペルー国立農業衛生植物検疫庁）及びPROVID（ブドウ生産者協会）による取引相手国の植物検疫規制を遵守するための取り組みとともに、ペルー産のブドウが国際市場に浸透することを可能にした。

2023/24年度には、ペルー産のブドウが初めて日本に上陸した。ペルーは現在、オーストラリア、フィリピン、チリ、イスラエルの市場開放に取り組んでいる。